

令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の影響について（第6報）

2024年1月7日
北陸電力株式会社

志賀原子力発電所は、1、2号機とも定期検査により停止中であり、外部電源や必要な監視設備、冷却設備等については機能を確保しており、発電所に設置しているモニタリングポストの数値に変化はなく、外部への放射能の影響はありません。

（1月5日にお知らせ済）

本日1月7日、詳細な点検を進めている中で、2号機主変圧器周辺の側溝および道路においてわずかな油膜を確認しました。また、志賀原子力発電所前面の海面上に、油膜（約5m×10m）が浮いていることを確認し、直ちに、中和剤等による油膜の処理を行いました。

現時点では、この油膜は、1月1日の地震時に変圧器絶縁油の漏えいが発生した際の噴霧消火設備の作動により、噴霧消火水と絶縁油がわずかながら変圧器周囲に飛散し、その後の降雨により側溝に流れ出した可能性が高いと考えております。詳細については、現在確認中です。

なお、放射線管理区域内で油を貯蔵している箇所に設置している漏油検知器に異常はなく、今回の油膜は放射線管理区域内の油ではありません。

発電所に設置しているモニタリングポストの数値に変化はなく、外部への放射能の影響はありません。

本件につきましては石川県、志賀町等関係自治体および公設消防に連絡しています。

添付資料1 海面の油膜の状況

以 上

